

牛池のミツガシワ(三島郡越路町)

渡辺 茂

牛池(うしいけ)

越路町と長岡市との境界、樹形山(299m)登山口付近に、通称「牛池」(うしいけ)とよばれる小さな池がある。

池の周囲はおよそ40m、その池にはおとなのひとが数人乗れるほどの浮島がひとつある。池は道路に面しており、幅20mくらいの湿地帯が池を囲むように広がり、その背後にはミズナラを主体とする雑木林・スギ林が隣接している。

牛池の植物

牛池をひきたたせてくれる植物のひとつにミツガシワがある。道路わきにあるにもかかわらず目立たない池であるが、浮島をはじめ周囲の湿地帯一面に広がるミツガシワ群落の開花のとき、池はその純白色で浮かびあがる(図1)。

このあと池周囲は、ヨシ・ススキの優先する季節へと移っていく。夏にはあちこちの水面にイヌタヌキモのかれんな黄色い花が顔をのぞかせる。

ミツガシワ

ミツガシワは北半球の温帯以北にひろく分布している。このミツガシワの種子は化石として、第三紀中新世以後によく出てくる。化石はトウヒ属やチョウセンゴヨウなど冷たい気候を好む植物とよく結びついている。

日本でも東北地方から北海道にかけてふつうに見られるが、近畿地方からは、ごく少なくなり、点々と分布する。これは、かつての氷河時代、氷河とともに南下してきた植物の子孫が、いまどうにか生き残ったものだといわれる。このような事実から、現在も生き残っている「古代植物」のひとつといえる。

県内のミツガシワの分布は、図2のとおりである。ほぼ県内全域に分布し、通常1000m以下のところに分布しており、新潟県植物分布図集によれば、かつては分布していたものの、現在絶滅している箇所が数箇所報告されている。池そのものが人為的になくなってしまったのか、あるいは池の植生がいずれかの方向に移り変わっていったためかわからないが、水辺の条件を好む植物ゆえにその分布域の減少が心配されるところである。

牛池をとりまく情勢

牛池は澁海川の支流のひとつ奔走川の源に位置し、かつては水田の「ため池」的利用もなされていたらしい。しかし現在は、積極的な利用はなされていない。ややもすれば、一般的な土地利用の経済的観点からして、池そのものの存在価値はあまりないものと見られる恐れがある。

この付近にある樹形山は城跡として知られ、昭和61年度より林道の整備・森林公園・観光資源の開発をめざした山一帯の環境整備が越路町の事業として積極的にすすめられている。



図1: 牛池の浮島とミツガシワ (June, 1986)

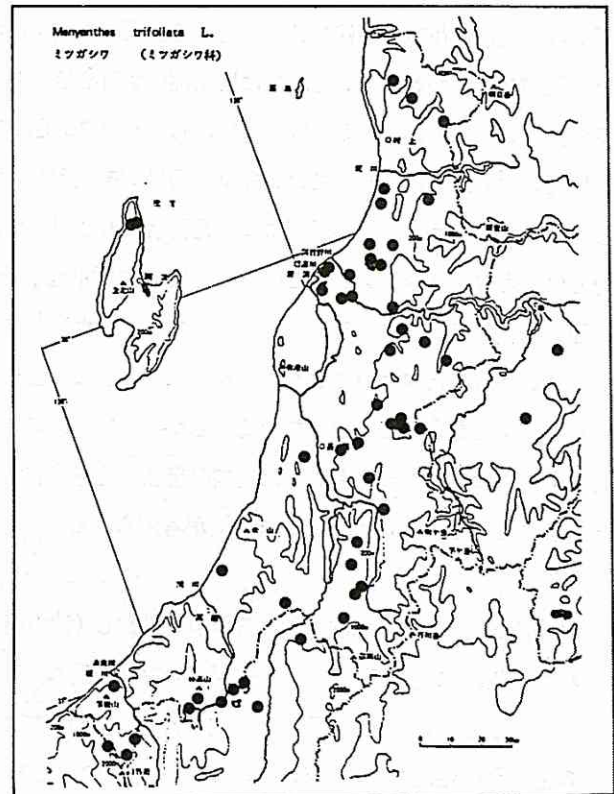


図2: 県内のミツガシワ分布

(1980: 新潟県植物分布図集 第1集)

県内あちこちの沼沢が人為的な原因により、好ましくない方向に変わっていく情勢の中で、現在までミツガシワ群落の生息を見守ってきた「牛池」の自然のしくみを尊重し、ひいては樹形山一帯の自然を守り、すえながく後世へ残していきたいものである。

(わたなべ しげる・植物同好じねんじょ会)